

北上市在宅医療介護連携支援センター移転

北上済生会病院および北上市在宅医療介護連携支援センターは、昨年 11 月 24 日より旧病院から北上市九年橋の新病院での診療をスタートしました。

新病院の標榜診療科は旧病院と同じ 21 診療科ですが、より一層地域医療に貢献できるよう病床数 224 床のうち回復期リハビリテーション病棟を 44 床から 60 床に増床し、人工透析器を 19 台から 25 台に増強しているほか、新生児に対応した病床を 4 床から 7 床に増床、分娩室及び陣痛室を個室とし複数整備するなど、地域周産期母子医療センター機能を強化しています。

北上市在宅医療介護連携支援センターは、正面玄関を入りまして 1 階、右奥にあります。両隣には、地域医療福祉連携室、訪問看護ステーションがあり、相談窓口が同じフロアになっています。

北上市連携支援センターは旧病院より、来室しやすい場所になりました。引き続きよろしくお願い致します。



ブロック 1 (小児科、総合診療科、呼吸器内科、内科、消化器内科、心臓血管外科、循環器内科)

ブロック 2 (皮膚科、血管外科、外科、耳鼻いんこう科、リウマチ科、整形外科)

ブロック 3 (脳神経外科、脳神経内科、眼科、泌尿器科、産婦人科)

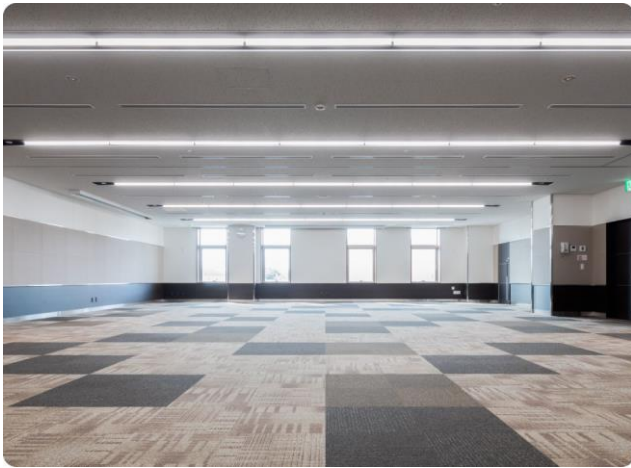


外来診察室は 3 つのブロックに分かれており、どのエリアに行けば良いのか、色で識別できるようにしています。



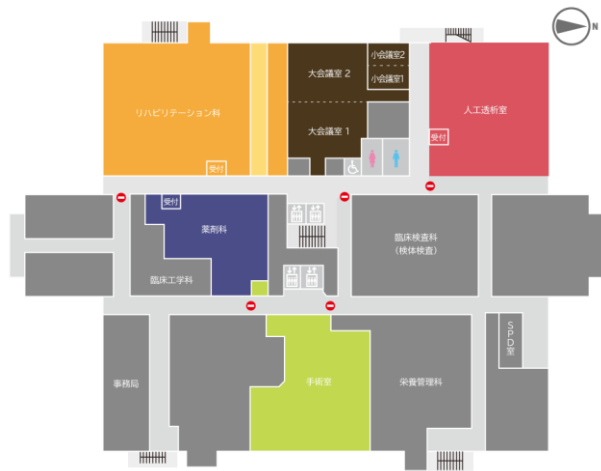
専門駐車場及び専門出入口を設けており、健康診断や人間ドックで来院される方は独立して受付できます

2 階



大会議室

病院スタッフ以外にも北上市内外の医療関係者をはじめ、様々な方々に見ご利用いただけます。



●大会議室へのアクセス●

エレベーターか中央階段で 2 階へ。降りてすぐが大会議室になります。大会議室 1 と大会議室 2 があり、入口が異なりますので研修等でお越しの際は案内を確認してください。

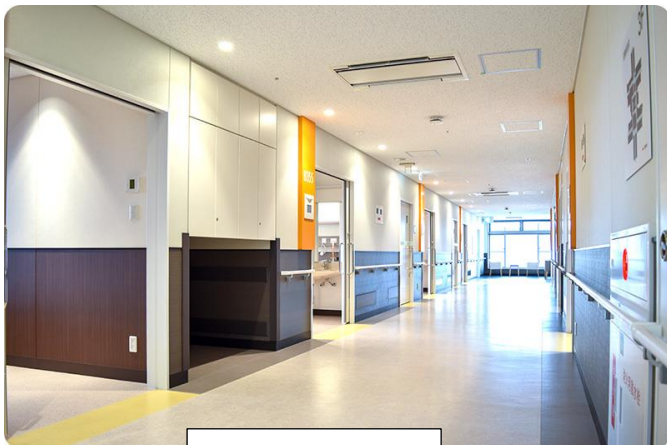
リハビリテーション科

南側に面したエリアで、天井が高く、広々とした明るい部屋となっています。



3 階（小児周産期病棟・回復期リハビリテーション病棟）

4 階（一般病棟）



3B のフロアです。



デイルーム

大きな窓があり、ゆったり過ごせます。

出前研修会が開催されました

12月23日、社会福祉協議会から依頼を頂きホームヘルパーを対象として、「口腔ケアと嚥下について～身体の健康の鍵は口腔機能維持から～」をテーマに開催しました。

北上済生会病院ハビリ科言語聴覚士の平野涼子氏と富田愛氏を講師に迎え、口腔体操・口腔ケア・食事介助時の感染予防や注意点などの話をして頂きました。参加者19名の皆さんは真剣に時に楽しく聴いておりました。

研修後のアンケートより、明日からの実践に役立ちそうですかについて(大いにある56% ある44%)の結果から有意義な研修会だったと思われました。



今回、講師をしていただいた
平野さんと富田さん。

言語聴覚士のお二人の講義は滑舌が
良く聞きやすかった!!と好評でした。
「こんな専門職の話が聞きたい」「こん
な内容の勉強会を開きたい」等ご希望
がありましたらご相談ください

第4回

ACP 初級セミナー

(Zoomによるオンライン研修)

主催：北上医師会/

北上市在宅医療介護連携推進協議会



会場では、こんな
感じで配信して
おりました!

3月6日、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)初級セミナーが開催されました。受講者30名、スタッフ19名が参加しました。Zoomによるオンライン研修となった今回は、ACPに関する講義後、1グループ受講者3名ファシリテーター1名の計10グループに分かれ、受講者3人が、本人・専門職・家族役を交代しながら、意思決定能力のある方の事例をもとに、4回のロールプレイを行いました。北上医師会主催による、医療ケアチームを対象としたこの意思決定支援研修も、今回で第4回を迎えました。今回も介護支援専門員や看護師、訪問看護師、リハ職、訪問介護、薬剤師、など多職種が参加しました。受講者からは、「専門職としては場の雰囲気づくりや引き出す力が求められる」「ACPIについては最期の医療の意思確認ではなく、患者さんや家族が安心して暮らせるよう支援していくこと」など、ロールプレイの体験を通して、ACPの基礎的なプロセスである、「患者や利用者とその家族が安心して暮らせるよう、将来の生活や治療について、患者や利用者を主体に、その家族や近い人、医療・ケアチームが丁寧に相談を重ねていく」ことについて理解し技術を習得する場となりました。

オンラインによる研修の難しさもありつつ、スタッフ、受講者ともに事前リハーサルを重ねたこともあり、一部音声がかえにくいなどありましたが、大きなトラブルもなくオンライン研修を終えることができました。

今後も意思決定支援研修会を開催していきますので、まだ参加されたことのないという皆さん、ぜひご参加ください。

北上市介護施設看取り 実態調査報告書

発行：北上市在宅医療介護連携支援センター



北上市在宅医療介護連携支援センター(在宅きたかみ)は、きたかみ型地域包括ケアビジョンの実現に向けて、在宅医療の推進、医療と介護の連携、享受できる介護の充実など、医療と介護の関わりがより良いものとなる拠点づくりを目的に、これまでに地域資源把握及び課題抽出と、多職種のネットワーク形成に取り組んでまいりました。これまでの取り組みから見えてきた課題の中で、北上市での看取り期を迎える高齢者の増加が予測され、高齢者の医療・介護の必要度に応じた適切な看取りの場を確保していくことが喫緊の課題となっています。そこで、今年度、在宅きたかみは、市民アンケートなどの結果をふまえ、利用者とその家族の不安を解消し、住み慣れた場所で看取りができる体制の構築を行うことを目的として、市内の介護保険サービス(施設系)事業所68施設を対象に、看取り体制の実態調査を行い、このたび報告書としてまとめました。今後、各事業所への配布と在宅きたかみホームページへの掲載をすすめてまいります。今回の調査で判明した成果と課題を、行政・医師会・医療介護福祉関係者の皆さまと共に、最期の時まで穏やかに過ごせる地域となるよう、より一層の取り組みを進めてまいります。また、この調査結果が、看取りについて一緒に考えていくことに少しでもお役にたてることを願ってやみません。最後に、本調査を実施するにあたりご協力をいただきました施設関係者の皆様、医療関係者の皆様、北上市長寿介護課の皆様に感謝申し上げます。



きたかみいきいき体操

新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛で筋力低下が危惧される中、北上市、北上市在宅医療介護連携推進協議会と共同で高齢者向けオリジナル体操動画『きたかみいきいき体操』を制作しました。動画は、動画投稿サイト「YouTube」の北上市公式チャンネルで配信しています。

動画には、市の観光キャラクター「おに丸くん」や二子町の「いも丸くん」などのキャラクターも参加し、椅子に座ったまま行える体操を紹介しています。腕を前や横に動かしたり、膝を伸ばす動作で、買い物や散歩の日常生活の動きを支える筋肉を刺激。理学療法士からの注意点なども解説し、安全で効果的に取り組めるよう工夫しています。

動画は約30分。10分程度のバージョンも公開しています。DVD版も作成し、3人程度で継続的に実践する団体には無料で貸し出しも行っています。また市の保健師等が活動場所を訪問し、体操の説明や指導も行います。

ご自宅や職場で、日頃の運動不足やレクリエーションのためにご利用ください。



トモエさんとわたるお兄さん

編集後記

長かった冬も終わり、だんだんと春らしくなってきました。今年は展勝地が開園100周年ですね。昨年はさくらまつりが中止でしたので、今年は早く桜がみたいです。

発行／北上市在宅医療介護連携支援センター

〒024-8506 北上市九年橋3丁目15番33号
TEL 0197-65-6121/FAX 0197-65-6122
H P <http://www.zaitaku-kitakami.com/>